

極小未熟児における蛋白強化母乳の効果 に関する研究

(分担研究：新生児・乳児の栄養管理に関する研究)

研究協力者 梅田 陽

共同研究者 林 智靖 奥山 和男

要約：蛋白強化乳の適応を決定するため、早産母乳の蛋白含量の低下を bed sideで調べる方法を検討した。脱脂乳部分の蛋白量を屈折計にて測定する方法は、Kjeldahl 法による窒素量から計算した蛋白量と良い相関を認めた。こうして、生後10週より強化母乳を開始した超未熟児例を呈示した。

見出し語：母乳蛋白、屈折法、蛋白強化母乳

目的：我々は、母乳栄養による蛋白摂取不足の問題を、いくつかの面から検討してきた。

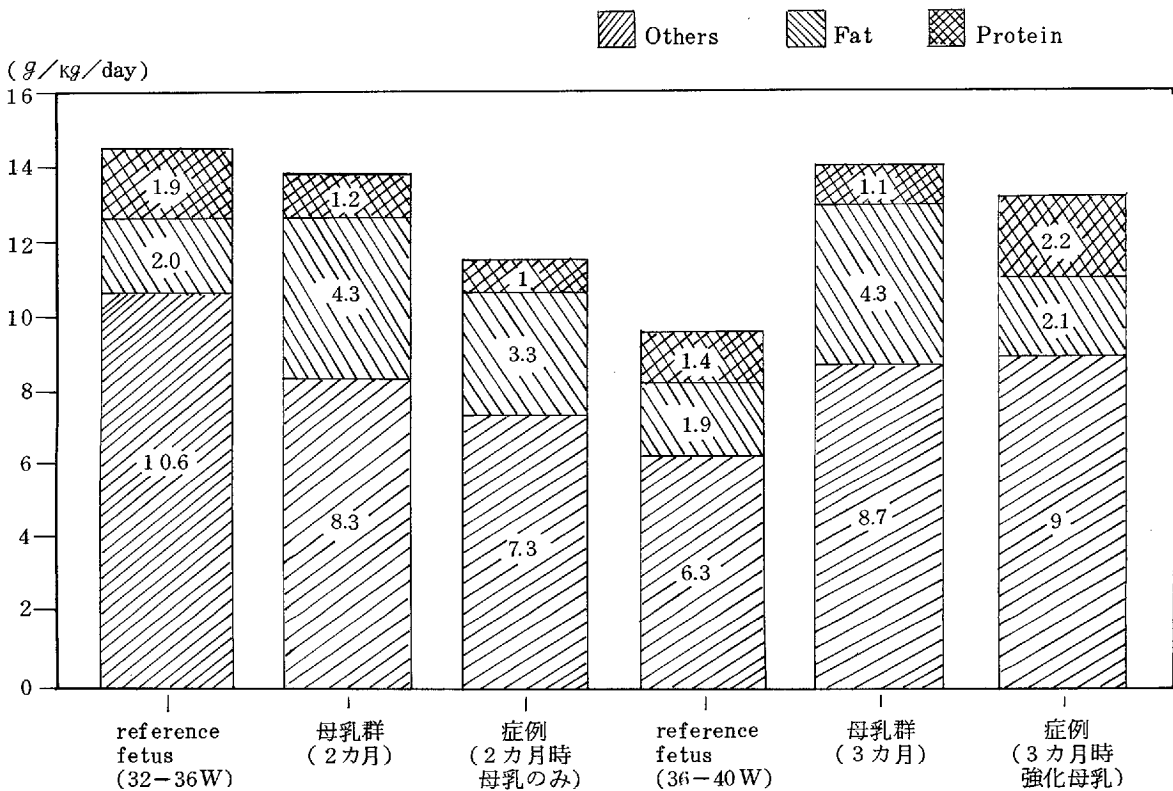
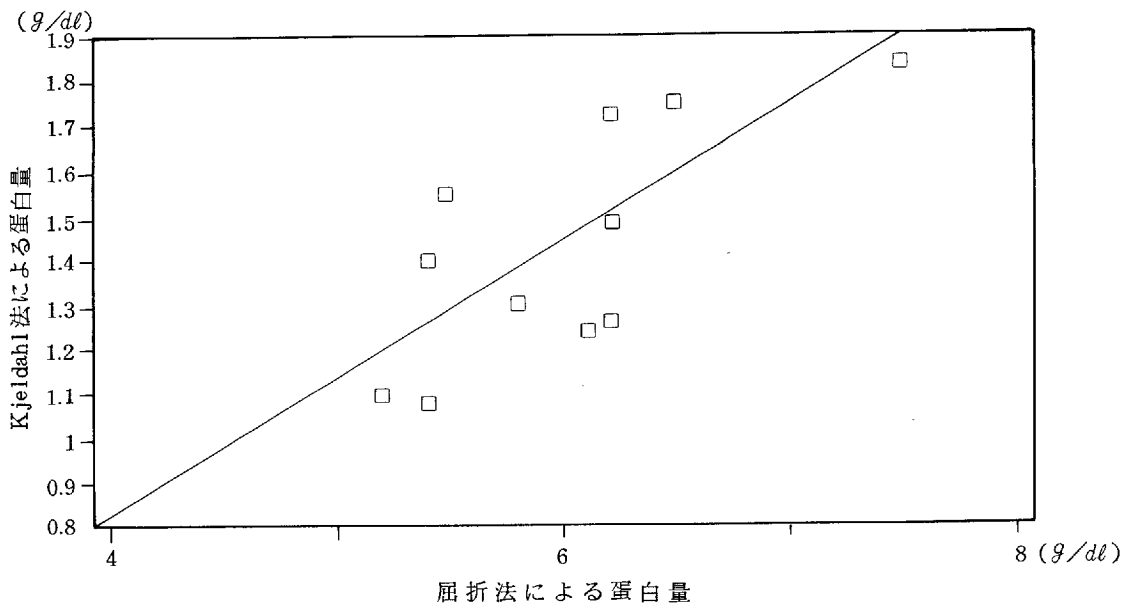
本研究は、蛋白強化母乳を実際の臨床に即して、使用する方法及その効果を検討することを目的とした。初年度は、母乳中の蛋白含量を bed side で測定する方法を検討し、かつ実際に強化母乳で哺育した超未熟児例の蛋白著積を報告する。

方法：(1)検体は低出生体重児(在胎週数27.6～32.9週、出生体重830～1322g)を出産した母親の早産母乳11検体である。母乳をヘマトクリット毛細管に入れ、1500 rpm、15分間遠心後、脱脂乳部分の蛋白量を屈折計にて測定した。一方、同じ母乳をKjeldahl 法にて求めた窒素量から蛋白量を計算し、2つの蛋白量の相関を求めた。(2)在胎27週6日、889gにて出生した超未熟児で、生後10週から強化母乳を開始した症

例の体重増加とその構成成分の推移を検討した。

結果：(1)屈折法とKjeldahl 法から求めた蛋白量は、図1に示すように相関係数 $r = 0.74$ ($p < 0.01$)と正の相関を示し、回帰直線： $y = 0.306x - 0.407$ となった。(2)症例は図2に示すように2カ月時の体重増加は $11.6g/kg/day$ 、蛋白量として $1g/kg/day$ と以前報告した母乳群に比較しても不良であったが、10週目より強化母乳を開始することにより、3カ月時の体重増加も $13.3g/kg/day$ と増え、そのうちの蛋白量も $2.2g/kg/day$ (率にして16.6%)となり、蛋白強化の効果を認めた。

考察：川口らの報告と考え合わせ、泌乳量の多い母乳は屈折法で蛋白量を調べ、蛋白強化の適応を決めるのが良いと考えられた。





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:蛋白強化乳の適応を決定するため、早産母乳の蛋白含量の低下を bedside で調べる方法を検討した。脱脂乳部分の蛋白量を屈折計にて測定する方法は、Kjeldahl 法による窒素量から計算した蛋白量と良い相関を認めた。こうして、生後 10 週より強化母乳を開始した超未熟児例を呈示した。